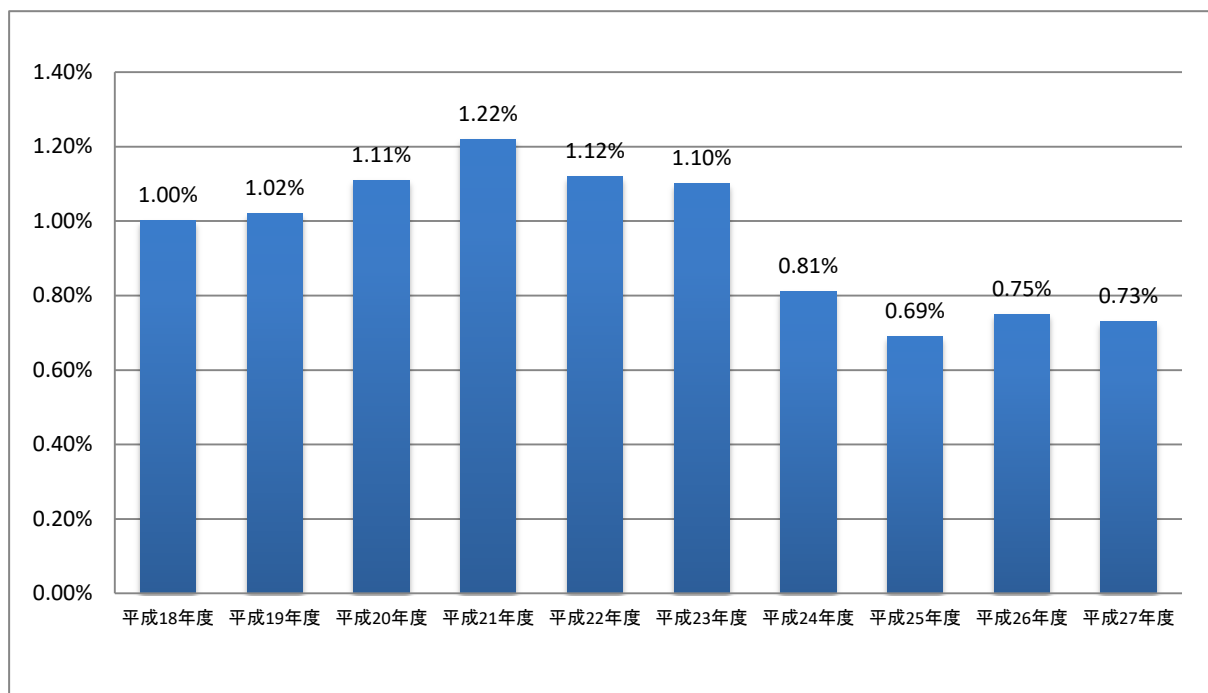


7. 褥瘡発生率



褥瘡は患者の QOL の低下を招き、在院日数の長期化や医療費の増大にもつながるため褥瘡対策は医療・看護・ケアの重要な評価の指標の一つである。

褥瘡対策実務委員会（以下、実務委員会）により、積極的な予防策、早期の治療・ケアが行われ、重症化する患者は減少している。また褥瘡発生の危険性が高い患者に対して、皮膚・排泄ケア認定看護師が積極的に関わることで各病棟の知識・意識・技術の向上も図ることが出来るようになりつつある。そのため平成 21 年度を境に順調に褥瘡発生率は減少してきたが、褥瘡発生率は 1 % を下回ることがなかった。そこで実務委員会で検討し、褥瘡保有患者が多い病棟を集中的に回診し、体圧分散マットレス供給率を基に高機能エアーマットレス台数を増やし、そして病棟のニーズに合わせて実践に役立つ内容を取り入れた勉強会を開催した。その結果、平成 24 年度以降の褥瘡発生率は 1 % を下回ることができ、現在も維持できている（平成 24 年度全国平均 1.16% 日本褥瘡学会 HP より）。これは実務委員会の活動の成果とともに、看護師の褥瘡対策に対するケアの質向上によるものと考えられる。現在はさらなる褥瘡発生率の低下を目標に、褥瘡発生の多い部署の現状分析をして週 1 回病棟で褥瘡カンファレンスを開催し、情報共有・知識・技術の向上に取り組んでいる。今後も褥瘡発生率の維持、低下を目指し積極的な褥瘡対策に取り組んでいきたい。

データ提供 看護部 公衆衛生看護科
褥瘡対策実務委員会